

特定非営利活動法人 あしやNPOセンター

【令和2年度報告書】



## 目 次

ページ

第14期（令和2年度）活動報告	1
第14期（令和2年度）活動計算	30
財産目録	32
貸借対照表	33
計算書類の注記	34
監査報告書	36

## 第14期（令和2年度）活動報告

### I 委託事業

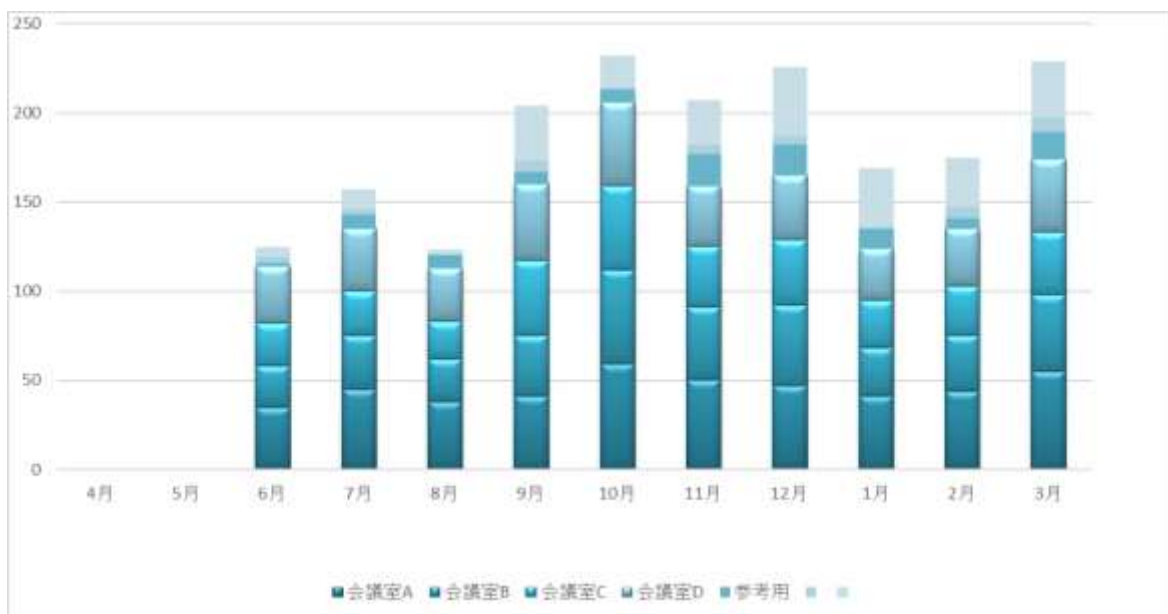
#### 1. あしや市民活動センター（以下、活動センター）の指定管理業務

##### (1) 会館の管理運營業務（定款①）

- ・会議室等を貸し出した。会議室の平均稼働率51%、利用料金は1,125,260円であった。コロナウィルスの影響で4月5月は休館となったが、一般利用者が増加したことにより、利用料金は前年度を上回った。

【会議室及び、多目的室・オープンスペースの稼働率】

	稼働日数	稼働回数	会議室A		会議室B		会議室C		会議室D		合計		参考用						
			回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	オープン1		オープン2		多目的室		
													回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数	稼働率(%)	回数
4月	0	0																	
5月	0	0																	
6月	26	78	35	45%	23	29%	24	31%	32	41%	114	37%	2	3%	3	4%	6	8%	
7月	25	75	45	60%	30	40%	25	33%	35	47%	135	45%	8	11%	3	4%	11	15%	
8月	25	75	38	51%	24	32%	21	28%	30	40%	113	38%	7	9%	1	1%	2	3%	
9月	24	72	41	57%	34	47%	42	58%	43	60%	160	56%	7	10%	6	8%	31	43%	
10月	27	81	59	73%	53	65%	47	58%	47	58%	206	64%	7	9%	1	1%	18	22%	
11月	23	69	50	72%	41	59%	34	49%	34	49%	159	58%	18	26%	5	7%	25	36%	
12月	23	69	47	68%	45	65%	37	54%	36	52%	165	60%	17	25%	5	7%	39	57%	
1月	22	66	41	62%	27	41%	27	41%	29	44%	124	47%	11	17%	1	2%	33	50%	
2月	22	66	44	67%	31	47%	28	42%	32	48%	135	51%	6	9%	6	9%	28	42%	
3月	26	78	55	71%	43	55%	35	45%	41	53%	174	56%	15	19%	8	10%	32	41%	
合計	243	729	455	62%	351	48%	320	44%	359	49%	1,485	51%	98	13%	39	5%	225	31%	



【会議室及び、多目的室・オープンスペースの利用料金収益】

月	会議室A	会議室B	会議室C	会議室D	会議室CD	オープン1	オープン2	多目的室	合計
4月	-17,910	-17,680	-29,560	-23,440	-25,200	0	-2,720	-1,870	-118,380
5月	-7,760	-10,940	-14,730	-13,160	-7,910	-4,410	0	-890	-59,800
6月	17,880	15,690	19,770	23,850	1,750	6,720	0	1,210	86,870
7月	21,070	19,230	26,400	34,830	1,750	10,780	2,480	2,210	118,750
8月	18,510	10,200	19,010	29,100	8,400	17,640	760	480	104,100
9月	22,860	16,440	36,500	32,910	5,970	4,200	3,240	8,790	130,910
10月	28,080	21,800	30,660	35,090	4,200	19,420	4,200	4,030	147,480
11月	24,080	18,280	26,850	32,790	0	15,120	4,880	6,460	128,460
12月	22,860	21,500	36,810	34,710	0	33,380	4,240	10,910	164,410
1月	20,060	17,540	35,290	33,190	0	22,680	760	9,640	139,160
2月	22,900	16,920	32,000	36,190	0	13,440	5,240	7,370	134,060
3月	25,200	20,420	37,180	35,450	0	25,040	0	5,950	149,240
合計	197,830	149,400	256,180	291,510	-11,040	164,010	23,080	54,290	1,125,260

※同月に実際に会議室を利用した料金を表示している。

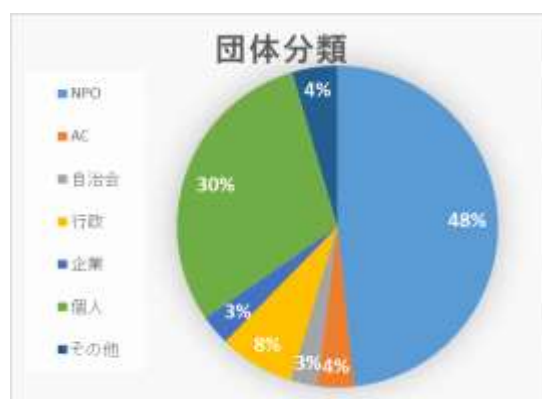
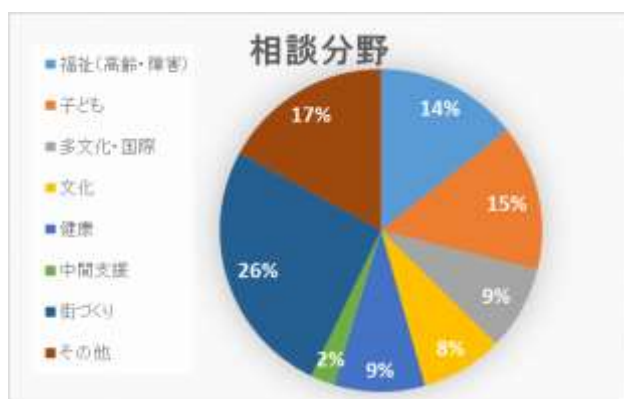
- ・ 6月17日（火）緊急地震速報訓練実施（報告6頁）
- ・ 12月9日（水）公光分庁舎北館南館合同避難訓練実施（報告6頁）
- ・ 大判プリンター、コピー機等の貸し出し、印刷に関する助言及び支援
- ・ NPO 関連の図書、プロジェクター等の無償貸出

(2) 相談業務（定款②）

全体の相談件数は前年度比で30%程度減となる329件。来所が減り、電話、メールによる相談が増えた。オンライン相談は新たに加わった手法になった。遠方の方ともFace to faceの相談ができるメリットがあり、来年度も大いに活用していきたい。

- ・ 相談件数の総数：329件、相談対応時間1,377分（約190時間）
- ・ NPO の設立や運営に関する相談203件、パソコン相談19件、ボランティア相談22件、助成金等財源相談37件、広報に関する相談16件、施設利用に関する相談32件、他大判プリンターなど印刷等に関する相談487件
- ・ 相談項目上位：「運営」107件、「情報提供」47件、「助成金財源」37件、特に2年度はコロナ禍の中での総会実施方法などの相談が相次いだ。
- ・ 相談分野上位：「街づくり」85件、「子ども」48件、「福祉」47件
- ・ 団体分類：「NPO関連」159件、「個人」99件、行政の相談から協働実施に至ることが今年度の特徴であった。
- ・ 年齢別：40歳以上が293件、高校生の相談も徐々に増加傾向にある。

相談項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(ア) 定例NPO相談	合計												203
60 設立	1	0	0	2	0	2	1	0	1	0	1	1	9
61 運営	10	14	19	12	3	6	4	5	6	12	11	5	107
62 起業	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	1	0	7
69 情報提供	3	2	4	3	6	5	5	1	0	5	6	7	47
70 その他	3	0	7	5	2	4	3	4	1	2	0	2	33
(イ) 登録団体パソコン無料相談	合計												19
67 PC	0	1	1	2	0	2	1	2	4	3	3	0	19
(ウ) ボランティア相談	合計												22
65 V活動	0	0	1	1	4	1	1	0	2	3	3	1	17
66 V募集	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5
(エ) 助成金・財源相談	合計												37
63 助成金・財源	9	9	1	5	4	2	4	0	1	1	1	0	37
(オ) 広報に関する相談	合計												16
64 広報	0	1	1	5	4	0	1	0	1	3	0	0	16
(カ) 施設利用(リードあしや)に関する相談	合計												32
57 登録	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
58 利用	0	0	1	2	1	4	2	1	2	0	0	2	15
59 印刷	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
68 リードの事業	2	0	0	1	2	2	1	3	0	1	0	1	13
合計	29	27	39	41	28	29	25	16	18	30	26	21	329



### (3) 市民活動団体の相互の交流とネットワーク支援事業（定款⑤）

- ・ 9月28日（月）～10月2日（金）介護予防のための「あしや健康1weekスクール」（報告8頁）
- ・ 10月31日（土）第13回あしや市民活動フェスタの開催（報告10頁）
- ・ 11月13日（金）ママと子の居場所「つきいちよるごはん」（報告10頁）
- ・ 12月19日（土）登録団体交流会事前Zoom勉強会（報告12頁）
- ・ 12月23日（水）登録団体オンライン交流会（報告12頁）
- ・ 夏休み！子どもわくわくスペシャル（報告13頁）
- ・ ふれあいカフェ：9月「ポイエシス」10月「スリランカ友の会」1月「あしや健康倶楽部」3月「ポイエシス」（報告14頁）

### (4) セミナー事業（定款④）

- ・ 5月23日（土）団体お助け1dayスクール（報告15頁）
- ・ 7月25日（土）、8月8日（土）コミュニティビジネスゼミナール（報告16頁）
- ・ 9月、10月、11月、12月 社会貢献のためのソーシャルナイト（報告18頁）
- ・ 10月11日 芦屋発 君も今日から新聞記者（報告21頁）

- ・ 10月24日（土）聞いてみよう！どうなっている JR 芦屋駅南（報告 22 頁）
- ・ 11月18日（日）グラフィックレコーディング講座（報告 23 頁）
- ・ 12月18日（金）グラフィックレコーディング講座振り返り会（報告 24 頁）
- ・ 1月16日（土）災害時対応セミナー（報告 24 頁）

#### (5) 市民参画及び協働に関する情報収集と提供業務（定款②）

- ・ ホームページで芦屋市の情報や、登録団体のイベント告知等の情報発信
- ・ 活動センター内で、ラック・パネルなどを活用して団体情報掲示
- ・ ボランティア募集ボードに、イベント、会員募集掲示
- ・ 季刊紙「リードあしや」49号6月29日、50号10月5日、51号1月5日、52号3月22日発行

#### (6) ボランティアコーディネーション（定款⑦）

- ・ 7月～10月「リードあしやのガーデンづくり」（報告 25 頁）

#### (7) 地域課題解決の仕組みづくり会議（定款⑥）

- ・ 11月20日（金）あしや笑顔ネット会議において「芦人認定」の動画決議

#### (8) 自主事業

- ・ 6月～1月 防災倉庫の動画化（報告 26 頁）
- ・ 10月～3月 Just! do it 「SDGs を体験しよう！」（報告 28 頁）
- ・ 10月～3月 Just! do it 「書の寺子屋」（報告 28 頁）
- ・ 芦屋市在住の高校生による「あしや部」
- ・ オープンスペース1にてドリンクコーナー設置
- ・ 「ランチ&カフェ」事業で4団体実施
- ・ ロッカーを設置し、12ロッカー貸出
- ・ 印刷機、ラミネート等の貸し出し、印刷に関する助言及び支援
- ・ ギャラリーで10団体に作品の展示、販売の場を提供
- ・ 利用者のくつろぎの場として自動販売機を設置し飲食の販売を行った。

#### 令和2年度 施設・備品利用料収入

月	貸室	複合機	大判	紙折	丁合	輪転印刷機			ロッカー	ランチ&カフェ	缶バッチ	ネット	カフェ	ギャラリー	デザイン	法人収益合計		法人総合計	収益総合計
						1日	自主	共有								自主事業	管理		
4	¥-42,340	¥72,370	¥0	¥0	¥600	¥44,413	¥35,530	¥8,883	¥11,200	¥0	¥0	¥1,080	¥100	¥1,400		¥11,024	¥2,756	¥58,193	¥88,823
5	¥-5,990	¥56,750	¥0	¥0	¥300	¥31,192	¥24,954	¥6,238	¥4,800	¥0	¥0	¥480	¥0	¥0		¥4,224	¥1,056	¥36,472	¥87,532
6	¥105,205	¥107,340	¥0	¥600	¥0	¥16,060	¥12,848	¥3,212	¥16,800	¥0	¥0	¥720	¥0	¥600		¥14,496	¥3,624	¥34,180	¥247,325
7	¥109,320	¥180,450	¥4,000	¥0	¥0	¥45,291	¥36,233	¥9,058	¥27,200	¥0	¥0	¥1,200	¥10,000	¥13,600		¥41,600	¥10,400	¥97,291	¥391,061
8	¥102,020	¥89,680	¥2,000	¥0	¥0	¥19,388	¥15,510	¥3,878	¥5,600	¥0	¥0	¥640	¥9,700	¥0		¥12,752	¥3,188	¥35,328	¥229,028
9	¥135,870	¥80,970	¥2,000	¥300	¥600	¥44,112	¥35,290	¥8,822	¥0	¥6,000	¥3,950	¥1,200	¥17,400	¥400		¥23,160	¥5,790	¥73,062	¥292,802
10	¥132,840	¥126,380	¥21,000	¥300	¥0	¥35,799	¥28,639	¥7,160	¥23,200	¥0	¥2,640	¥1,810	¥20,320	¥200		¥38,536	¥9,634	¥83,969	¥364,489
11	¥155,820	¥83,410	¥1,500	¥0	¥300	¥30,136	¥24,109	¥6,027	¥4,800	¥12,000	¥0	¥2,480	¥17,450	¥600		¥29,864	¥7,466	¥67,466	¥308,496
12	¥122,190	¥155,460	¥10,000	¥0	¥0	¥24,928	¥19,942	¥4,986	¥4,800	¥12,000	¥6,130	¥2,920	¥19,200	¥400		¥36,360	¥9,090	¥70,378	¥358,028
1	¥98,910	¥93,020	¥0	¥0	¥0	¥17,012	¥13,610	¥3,402	¥0	¥6,000	¥0	¥2,000	¥14,700	¥300		¥18,400	¥4,600	¥40,012	¥231,942
2	¥121,550	¥91,710	¥0	¥0	¥300	¥35,633	¥28,506	¥7,127	¥0	¥5,000	¥0	¥1,720	¥17,530	¥300	¥6,000	¥24,440	¥6,110	¥66,183	¥279,743
3	¥157,700	¥132,030	¥8,260	¥300	¥300	¥49,296	¥39,437	¥9,859	¥19,200	¥-18,000	¥1,380	¥3,320	¥15,400	¥400	¥0	¥17,360	¥4,340	¥70,996	¥369,586
合計	¥1,193,095	¥1,269,570	¥48,760	¥1,500	¥2,400	¥393,260	¥314,608	¥78,652	¥117,600	¥23,000	¥14,100	¥19,570	¥141,800	¥18,200	¥6,000	¥272,216	¥68,054	¥733,530	¥3,248,855

## II 独自事業

### 1. 人材育成及び講師派遣事業（定款④）

- ・ 12月19日（土）阪神南地域ビジョン委員会「Zoom 講座」開催
- ・ 8月2日（日）伊丹市立市民まちづくりプラザ プレゼンテーション講座講師派遣（報告 29 頁）
- ・ 8月、3月 灘中対象トライ・やる
- ・ 東灘区社会福祉協議会こどもサポート・ボランティア養成講座（中止）

### 2. 情報提供事業（定款②）

- ・ NPOセンター通信 11号を発行しホームページに掲載
- ・ 毎月1日メールマガジンの配信
- ・ 法人の Facebook Instagram を利用し、事業内容を都度配信
- ・ ためまっぷ芦屋へ団体、行政のイベント及び、地域資源マップを立ち上げ、コロナ禍の店舗情報など芦屋市内情報を配信

### 3. 各団体の委員を担う。

- ・ 年4回みどり地域生活支援センター運営会議出席
- ・ 障がい児・者作品展の会議出席及び作品集制作
- ・ 芦屋市地域福祉審議会及び検討会チーム C の会議出席

### 4. 他団体への後援・協力（定款⑤）

- ・ NPO法人あっとオーティズム「世界自閉症啓発デーLight it up Blue2021」支援
- ・ 大阪II ゾンタクラブイベント支援
- ・ 県立芦屋高等学校書道部の支援
- ・ NPO法人市民事務局かわにし「NPO 大学学び塾」支援
- ・ 芦屋市（障害福祉課、政策推進課）の市制80周年記念事業の支援
- ・ メールマガジン等で市民団体の広報支援をした。

### 5. 組織運営 理事会等

- ・ 令和2年4月21日（火） 第1回理事会 14期通常総会内容書面討議
- ・ 令和2年4月21日（火） 令和1年度監査
- ・ 令和2年5月9日（土） 第14期書面通常総会
- ・ 令和2年5月9日（土） 第2回理事会 役員の選定
- ・ 令和2年8月28日（金） 第3回理事会 補正予算審議
- ・ 令和3年2月1日（月） 第4回理事会 令和3年度事業計画案審議  
電磁的記録決議
- ・ 事務局会議：毎月1回の開催と、申し送りを兼ねた朝礼を毎日実施
- ・ 指定管理者事務局会議：毎月1回、市民参画課と指定管理業務内容の確認

## 令和2年度緊急地震速報訓練報告書

- 1 日時：令和2年6月17日（火）10：00～10：10
- 2 会場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや
- 3 担当：二宮
- 4 参加者：31名
- 5 主催：気象庁
- 6 内容
  - (1) 目的：気象庁主催のJアラートを通じた緊急地震速報訓練に参加することで、緊急時の身を守る行動を身に付ける。
  - (2) 内容：10時にJアラートからの緊急情報の放送が、緊急告知ラジオを通して訓練放送が流れるのを合図に、安全確保行動をとる「シェイクアウト訓練」を実施する。貸会議室利用者にも訓練参加の協力をお願いして、会館利用者及び職員が訓練に参加する。
- 7 振り返り
  - ・当日の貸会議室は、A室、C室、D室にそれぞれ3人、16人、8人の合計27人が利用中であったが、事前に訓練チラシ（別添ご参照）を元に簡単な説明を行っていたことから、放送が流れた10時に全員参加いただけた。
  - ・当日の職員4人は、1階職員は常備しているヘルメットを着用し、個々の座席にて訓練に参加。2階職員は各会議室を見回った。
  - ・印刷室は当日の利用者がいなかったが、印刷室はテーブルが不足しており頭を守るための行動ができないので、今後、通常運営が始まり利用者が増えることを見越し、ヘルメットの常備数を検討したい。



以上



## 芦屋市公光分庁舎避難訓練報告書

- 1 開催日時：令和2年12月9日（水）10：00～10：30
- 2 担当：二宮 毅行



### 3 参加者数：39名

(市民活動センター利用者：27名，地域経済振興課職員：7名，  
リードあしや職員：5名)

### 4 内容

(1) 目的：消防法に基づいた避難訓練の年1回の実施を行い、火災時の対応が円滑にできるようにする。

(2) 内容：公光分庁舎南館2階給湯室にて出火を想定した総合避難訓練（通報訓練・避難訓練・消火訓練）※別紙

- ・南館にて出火確認、非常ベルが鳴動後に北館連絡により避難開始
- ・職員による施設利用者の避難誘導
- ・避難場所での水消火器を使つての消火訓練
- ・消防本部隊員による訓練講評及び講話

### 5 振り返り（消防本部講評も含む）

(1) 初期消火訓練について

- ・南館が仮想火元であったので、通報を受けて北館職員が消火器2本を南館消火班に届けた。

(2) 通報訓練について

- ・南館から火災受信機と電話連絡により通報を受け、利用者への避難連絡が円滑に行うことができた。

(3) 避難誘導について

- ・北館2階の4つの会議室に利用者27名がいたが、避難経路を屋内階段と屋外階段に分散確保し、それぞれに北館、南館職員を配置し誘導した。A室の利用者3名の中に足が不自由で階段避難が困難な方がいたが、火元と逆側になるD室東側ベランダに避難させた。（消防隊が到着後の救助を想定しての避難措置）

(4) 水消火器を使った消火訓練について

- ・避難場所において消防本部隊員による消火器の扱い方の説明の後、実技を行った。多くの方が参加して使い方を学習することができた。

(5) その他

- ・消防本部隊員から訓練についての講評があったが、円滑な避難がなされたことへの良い評価があった。
- ・公光分庁舎南館から北館への非常通報がベルではなく電子音によるものであったことが確認できたが、印刷機の稼働時、電話の通話時、会話時には聞き逃す可能性があるのではないかと指摘が職員からあった。
- ・北館の職員配置は1階2人、2階2人としたが、オペレーションの工夫次第で、より円滑な避難ができると思われる、1階1人、2階3人の配置が取れることが分った。
- ・より実践的な避難訓練として、館内重要物（サーバー、金庫、重要書類等）の

搬出や、近隣住民の協力を得ての身障者の避難救助等についての検討もしたい。

- ・火事を想定した訓練以外に地震など他の災害における避難訓練も検討してみたい。

訓練風景



介護予防のための「あしや健康 1week スクール」報告書

- 1 日 時：令和2年9月28日（月）～10月2日（金）  
午前10時30分～11時30分、午後1時30分～2時30分
- 2 会 場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや
- 3 担 当：二宮
- 4 参加者：106人…のべ人数（参加者：75人、講師：10人、アシスタント：6人、見学者：5人、スタッフ：10人）

		参加者	見学者	講師	アシスタント	スタッフ	合計
9/28 (月)	午前	12人		1人		1人	14人
	午後	8人		1人	2人	1人	12人
9/29 (火)	午前	12人		1人		1人	14人
	午後	3人		1人	1人	1人	6人
9/30 (水)	午前	5人		1人		1人	7人
	午後	6人	3人	1人	1人	1人	12人
10/1 (木)	午前	4人		1人	1人	1人	7人
	午後	9人		1人	1人	1人	12人
10/2 (金)	午前	10人	2人	1人		1人	14人
	午後	6人		1人		1人	8人
合 計		75人	5人	10人	6人	10人	106人

## 5 事業詳細：

(1) 目的：リードあしや等を利用して介護予防や健康増進プログラムを提供する個々の団体の更なる事業の展開を支援する。また、市民が気軽に体験し、自分に合ったプログラムを見つけることで健康増進に取り組めるよう、個々のプログラムを束ねたイベントとして開催した。

(2) 内容：芦屋市内を中心として健康プログラムを提供する団体・個人を募集し、介護予防に役立つ8つの健康プログラムを日替わりで体験できるイベントとして開催した。プログラム提供者は、出店料を支払い、参加者は出店者に受講料を支払い、広報、申込、会場はリードあしやが行った。広報あしやへの掲載、リードあしやの利用者にチラシを配布するなどの広報活動を行い、高齢者女性を中心にのべ75人の参加があった(実人数は45人)。いろんなプログラムの体験ができることで、一人で二つ以上のプログラムを受けた方もおり、自分に合うプログラムを見つけて、続けてもらうきっかけづくりができたのではないかと思います。

6 振り返り：今回の8団体のプログラムは参加者の感想からも好評であった。終了後に講師の方の講座や教室に行ってみたい。と直接、連絡を撮った方や、リードあしやで教室をやって欲しいといった要望が出るなど、講師と参加者が繋がる関係づくりが進むと思われる。

タイトルに「介護予防のための」を付けたことから、参加者のほとんどは60歳代以上の高齢者であり、ターゲット層に遡及できたと思われるが、男性が4名と非常に少なかったこともあり、幅広い年齢層の参加を促したい。

また、保健センターのヘルスアップ事業「健康ポイント」の対象日が10/2の1日のみであったため、来年度に実施することになった場合は、保健センターと連携をとり、すすめてみたい。

以上



## つきいちよるごはん報告書

1 日 時：令和2年11月13日（金）18：30～20：30

2 会 場：リードあしや オープンスペース1

3 担 当：高田

4 参加者：19人（会場16人 サポーター1人 職員2人）

5 事業詳細

(1) 目 的：毎日がんばっている親と子の息抜きの場づくり。

(2) 内 容：こどもと一緒に食事をし、参加者それぞれの関心事などを、親同士で会話をし、思いを共有できる場となった。

今回はサポーターとして保育士資格を持つ子育てサロンの方が子どもたちへの遊びを準備。エプロンシアター、魚釣りワークショップなどで楽しみ、親の援助なしに自分たちで協力して物事を達成することを学ぶ場となった。

6 振り返り

・今回はプレ開催でよく知るメンバーでの開催となり、大人もこどもも楽しく過ごせたようだが、感想にもあったように、初参加の人がいる場合は、ファシリテーターが上手く盛り上げていくため、ファシリテーションスキルも高めていく必要があると感じた。

・感染症拡大防止対策をしながらの開催ではあったが、食事をして、マスクなしで遊ぶ子どもたちのことを考えると、コロナ感染拡大の状況を考えると次回開催の目処が立てにくい、みんなで集う場の必要性も感じたため、開催方法を検討したい。



以上

## 第13回あしや市民活動フェスタ報告書

1 日 時：令和2年10月31日（土）13：00～17：00

2 会 場：リードあしや 会議室AB

3 担 当：橋野

4 参加者：48人（講師1人 ゲストスピーカー2人 会場25人 行政5人  
オンライン11人 職員4人）

5 講 師：アオナミユミコさん（ビジュアルファシリテーター）

ゲスト：中島彌生さん（etalagiste 代表）

浅井裕介さん（あおぞらドラマカンパニー代表）

## 6 事業詳細

- (1) 目的：様々な役割を持った市民が集まりまちづくりをするうえで、共有化を図る有効なツールとしてファシリテーションの一つであるグラフィックレコーディングを学ぶ場を設け、ファシリテーター育成の第一歩とする。
- (2) 内容：1部は、市内で活躍する2名の方にスピーチをしていただき、同時にグラフィックレコーディング化し、話を深める。  
2部は、グラフィックレコーディングの体験  
3部は、1部、2部を通じての質疑応答

## 7 振り返り

- ・6月開催予定がコロナ化で10月末に開催となり、3月初めに打合せを持った講師、ゲストスピーカーのお二人には再度打合せをしていただくことになり、下準備にも時間を取る結果となり、ご迷惑をおかけした。
- ・会場とオンラインのハイブリッド開催であった。会場の雰囲気はアンケートでもわかるように良い雰囲気であった。オンラインについては、Wi-Fiが切れたり音声が遠かったり、また、会場のグラレコが見づらかったりと問題は多々あり、同時開催の難しさがあった。
- ・芦屋市民（在住、在勤、在学）が8割を占めていた中、ゲストスピーカーは芦屋で活躍する人にこだわったことは、参加者の刺激となったようで次への活動へ繋がるのが期待できた。
- ・子ども新聞記者の高校生の参加の他に、中高生の参加があり、これからの世代がフェスタを「学びの場」としている様子が頼もしかった。

以上



## ZOOM 勉強会報告書

- 1 日 時：令和2年12月19日（金）14：00～16：00
- 2 会 場：あしや市民活動センター リードあしや 1F オープンスペース
- 3 担 当：二宮（司会及び講師）
- 4 参加者：26人  
（参加者：5団体17人、高校生サポーター：6人、顧問・スタッフ：3人）
- 5 事業詳細：
  - (1) 目 的：リードあしや登録団体交流会を今年度はオンライン開催とすることから、ZOOM 参加を促すための勉強会の開催。
  - (2) 内 容：2クラス制各45分の勉強会。
    - ・持参のパソコン・スマートフォンへのZOOM アプリのインストール
    - ・ZOOM 会議招待 URL にアクセスしての模擬オンライン会議
    - ・ZOOM 各種機能の説明、各操作をテーブル1台につき、高校生サポーターが1人つくマンツーマンで進めた。
- 6 振り返り：各自の端末に、ZOOM アプリのインストールと模擬オンライン会議への受講者全員の参加を目指すことの目的は達成できた。
  - ・本勉強会は、次週に開催するリードあしや登録団体交流会をオンラインで開催するために ZOOM 未経験者、初心者向けに設けたが、登録団体の参加が少なかった（5団体）ことは残念だった。
  - ・地域連携として、登録団体の阪神南地域ビジョン委員会から14人（内、スタッフ1人）が受講生として参加した。甲南高等学校ボランティア委員の6人が、参加者1～2人をマンツーマンでサポートしたことで操作方法等を理解でき、全員が ZOOM 模擬会議に参加することができた。頼もしい助っ人であり、機会があれば再度、来てもらいたい。
  - ・参加者には、次に ZOOM で会議を主催できるよう、サインアップ（アカウント登録）のためのマニュアルを送ることとし、今後の市民活動の活性化の励みになっていくことを期待したい。



以上

---

## 登録団体オンライン交流会報告書

- 1 日 時：令和2年12月23日（水）14：00～15：30
- 2 会 場：オンライン（ZOOM）

3 担 当：二宮（進行役）

4 参加者：9人

（参加者：8団体8人、スタッフ：1人）

5 事業詳細：

- (1) 目 的：リードあしや登録団体間の交流を促進し、連携等による市民活動のより一層の活性化を目指す。コロナ感染拡大防止と新たなツールを使った交流会として ZOOM によるオンラインでの開催。
- (2) 内 容：・参加団体の活動紹介、近況報告及びイベント等のPR。  
・コロナ禍で活動に影響を受けたこと。その対応事例の情報共有。

6 振り返り：

- ・コロナ感染防止対策によりオンライン開催としたが、参加者は8団体8人と少なかった。オンラインへの抵抗感やテーマに訴求力不足といった要因はあると思われるため、より多くの団体が交流できる方法を考えていきたい。
- ・ZOOM 勉強会に参加した2団体が参加した。
- ・全員が顔出しで参加したことで、画面を通して親近感を得られ、又、発言者の話をしっかり聞くことができた。
- ・いくつかの団体から会員の高齢化、減少から、募集活動を強化したいといった近況報告があった。
- ・コロナ禍の対応として、SNS や ZOOM を導入して、オンラインセミナーやレッスンを提供した。会員間のコミュニケーションツールに活用した。など、新たな試みをした団体からの事例報告があった。
- ・新たに ZOOM を検討したい、今年度の実績報告の書き方について指導をしてほしいといった団体からの声もあることから、又、勉強会といった機会を設けてみたい。



以上

-----  
夏休み！わくわくスペシャル報告書

1 実施日：中止（内容変更）

2 担 当：出口

3 場 所：リードあしやホームページ掲載

4 参加団体：現在2団体

- 5 内 容：実施できなかつたため、団体に「おうちで作って遊べるおもちゃの作り方」を提供いただき、リードあしやのホームページに掲載した。次年度の夏休みわくわくスペシャルまで更新していく。
- 6 振り返り：当初8月予定を延期にして、翌年3月実施予定を中止とした。スマイルボランティア主催のふれあいカフェなどを計画していたため、子どもたちへの負担を考え中止という選択をした。
- 7 今後の対応  
様々な団体に協力いただき、定期的に作って遊べるおもちゃの作り方を提供していただき、ホームページに掲載していきたい。

以上

---

### 「ふれあいカフェ」年間報告書

- 1 日 時：毎月第2土曜日 13：30～16：00
- 2 会 場：オープンスペース1
- 3 担 当：出口
- 4 参加団体：3団体4回開催（実績表参照）
- 5 参加者数：大人59人、子ども6人、プログラム参加者113人
- 6 参加者からの振り返り
  - ・新型コロナで体温測定があり、スタッフを確保しなければいけないので、カフェの運営が厳しかった。しかし来場者には満足いただけたと思われる。
  - ・広報を出展者にも協力いただけるシステムを作していきたい。
  - ・従来の定番品より茶葉の紅茶が売れたのは、試飲会を行った効果と思われる。
  - ・交流をすることでスリランカを知ってもらえた。
  - ・カフェスペースとプログラムスペースを半分に分けることでくつろぐスペースを提供できた。
  - ・感染予防のため定員を減らし、対策を講じての開催になったが参加者の皆さんは喜んでいただけたと自負している。
- 7 全体の振り返り
  - ・新型コロナウイルス感染予防のため、3団体のキャンセルがあった。
  - ・中止、延期、内容の変更なので広報通りいかないものもあった。
  - ・実施団体には、感染予防の徹底をお願いし十分ご理解いただき、問題なく開催できた。
  - ・市からの実施直前でのカフェ中止要請にも関わらず、プログラムだけの実施にも快く受け入れていただいた団体があった。
- 8 今後の対応
  - ・今後もなお一層感染予防に努め、安心して開催できるよう実施団体と協力していきたい。
  - ・実施団体への説明時に、急遽カフェのみのキャンセルがある旨も伝え、ご理解いただけるよう説明していきたい。



## 9 実施の様子



9月 ポイエシス



11月 日本スリランカ友の会



1月 あしや健康倶楽部

### 団体運営お助け1dayスクール事業報告書

- 1 実施日：5月23日（土）10：30～16：00（昼休憩70分）
- 2 担当：二宮毅行、金子美保
- 3 参加者：のべ81名（1時間目21人、2時間目20人、3時間目20人、4時間目19人、放課後の個別相談1人）
- 4 講師：生島 正氏（2時間目：CAMPFIRE 地域アドバイザー）  
増本有紗氏（3時間目：オフィスメイト）  
長城紀道氏（4時間目：芦屋法律事務所）  
二宮毅行（1時間目：あしやNPOセンター）
- 5 目的：団体運営にとって年度替わりの時期における決算、総会準備、新年度の事業計画に伴う資金計画など団体運営に関する相談の主なものに対する課題解決を目的とする。
- 6 内容：1時間目「活動資金獲得セミナー 助成金編」  
2時間目「活動資金獲得セミナー クラウドファンディング編」  
3時間目「総会に向けてのお役立ち会計セミナー」  
4時間目「あなたの団体はやってますか？総会対応の運営確認セミナー」  
放課後 「個別相談」
- 7 振り返り
  - ・今回のセミナーは団体の総会に備えた時期に合わせたテーマとしていたため、4月下旬開催を予定していたものを1ヵ月延期したが、5月末日までの閉館に伴い、Zoomを利用した初めてのオンライン開催となった。
  - ・各時間20名程度の参加者の中に初めてのオンライン利用者もあり、ビデオカメラが作動しないといったトラブルがあったが、概ね好評であった。
  - ・今回の講座はNPO法人を中心とした内容としたこともあり、NPO法人は8団体11名が受講した。また、団体運営に関わる学習が目的で任意団体や市民活動を行っている方の参加もあった。
  - ・広報は、主催者側にとっても初めてのオンラインの不安感もあり、積極的なアナウンスはせず、運営相談者へのメール、ホームページ、Facebook イベントページを中心に行ったが、東京地域のNPO法人代表者からの参加もあり、

Facebook とオンライン形式の効果が感じられた。今後の有効活用を検討する。

- ・講師側の感想としては、目の前に参加者がいないことから、理解度などの反応が掴めないといったコメントがあった。一方通行の講義といったスタイルに講師側も慣れていくことが必要であると感じた。
- ・質疑応答の時間を取らず、Zoom 内でのチャット及び別途メールか電話等での受付を行い、運営の大枠は理解してもらったようだが、細部のことで聞いておきたい内容もあったのではないかと思われる。
- ・今回のセミナーの工夫点として、受講者特典に NPO 法人の各種提出書類のひな型集と Excel 会計を格納した CD-ROM を配布することとしていたが、手渡しができなかったため、メールなどの別の方法での提供を考えたい。



以上

-----

#### CBゼミナール「チイキ・カダイ×ビジネス」第1回目事業報告書

- 1 実施日：7月25日（土）13：30～15：00
- 2 担 当：二宮毅行
- 3 参加者：33人  
(リアル参加：15人、オンライン参加：18人)
- 4 講 師：梅山 晃佑（ウメヤマ コウスケ）氏  
大阪地域職業訓練センター「A<sup>1</sup>ワーク創造館」
- 5 目 的：コミュニティ・ビジネス概論を実践者に学ぶ。市民活動にビジネス的手法を取り入れることにより、高齢者のみならず、より幅広い年齢層の活動人口を広げる。
- 6 内 容：・コミュニティ・ビジネス概論（見つけ方、作り方、進め方）  
第1章：そもそも、コミュニティ・ビジネスとは何？  
第2章：準備をはじめよう フローチャートの取組みのステップの説明。  
第3章：実践編～タイプ別の進め方  
第4章：事業妄想書を書いてみよう 事業計画書ではなく、妄想書の書き方  
・日本政策金融公庫から融資の説明／神戸東支店課長 岩倉裕司氏
- 7 振り返り
  - ・連続講座の第1回目は、コミュニティ・ビジネス概論の講座を開催した。講師の梅山氏は勤務先でコミュニティ・ビジネスに関する各種セミナーの企画、開催や相談、また、自らも実践していることもあり、参加者に寄り添った分かり

やすい内容と進め方で満足度は高かった。

- ・リアル参加とオンライン参加のデュアル形式で募集し、合計で33人の参加者であった（キャンセルは8人）。講師人脈で学生の参加もあり、掘り起こしを推進している40代を中心とした比較的若年層が多かった。
- ・オンラインはZoomを利用したが、設定に不備があり、開催時間になっても参加できない状況が生じてしまい、事務所への電話やメールでの問合せが集中するなど、対外的・社内的に一時的な混乱を招いてしまったことは、大いに反省すべき点となった。
- ・同様に、セミナー用に設置したマイクスピーカーがスムーズに機能せず、リアル参加者等の発言を上手く拾うことができなかった点にオンライン参加者からクレームが寄せられた。



以上

#### CBゼミナール「チイキ・カダイ×ビジネス」第2回目事業報告書

- 1 実施日：8月8日（土）13：30～15：00
- 2 担 当：二宮毅行
- 3 参加者：24人（リアル参加：14人、オンライン参加：10人）
- 4 講 師：生島 正（イクシマ タダシ）氏 CAMPFIRE 地域アドバイザー
- 5 目 的：コミュニティ・ビジネス概論を実践者に学ぶ。市民活動にビジネス的手法を取り入れることにより、高齢者のみならず、より幅広い年齢層の活動人口を広げる。
- 6 内 容：クラウドファンディングから学ぶコミュニティ・ビジネス  
クラウドファンディングの仕組み 事例紹介 進め方
- 7 振り返り
  - ・連続講座の第2回目は、クラウドファンディングから学ぶCBというテーマで、CAMPFIRE 地域アドバイザーの生島氏を講師に招き、クラウドファンディングの仕組みから進め方についての講義を行った。今回、リアル参加は14人で参加率70%、オンライン参加10人で参加率50%とやや低調であった。
  - ・講義内容としては、クラウドファンディングの説明が中心のものとなってしまう、コミュニティ・ビジネスの実践ツールの一つとして、カタチに持っていくための進め方にもっと焦点を当ててもよかったと感じた。
  - ・参加者には、クラウドファンディング未経験者が多かったこともあり、アンケート回答者15人は、1名を除き「とても役立った」「少し役立った」であり、

満足度は高かったと思われる。

- ・ Zoom を使用してのオンラインは、今回もパワーポイントの画面共有に不具合が生じたものの、講師のアシスタントが迅速な対応をしてくれた。
- ・ 今回、当法人の独自事業として実施のトライやるウィークに参加の男子高校生2名が本講座に参加した。また、夏休み期間中を利用しボランティア活動を希望する女子高校生2名は受付係を担った。



以上

### ソーシャルナイト報告書

- 1 日 時：令和2年9月4日（金） 19：00～20：30
- 2 会 場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや及びオンライン(Zoom)
- 3 担 当：二宮
- 4 参加者：35人（リアル参加：13人、オンライン参加：19人、他：3人）
- 5 講 師：川辺 友之氏（株式会社パーシヴァル 代表取締役 CEO）
- 6 事業詳細：

(1) 目 的：社会貢献活動の実践者から活動内容を紹介してもらうことで、意識、気づきから、踏み出すきっかけを見つけ、社会・地域における貢献活動への意欲喚起に繋げる。参加者間との交流によるコミュニティを形成し、参加意識を醸成することを目的とする。

第1回は「地域活性化」をテーマに、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウを組み合わせ、街の活性化に取り組む方法を紹介いただく。

(2) 内 容：

ITがモノづくりを変えると気づいたことで、仲間づくり、勉強会、コミュニティづくりを継続的にやっていること、さらにはクラウドファンディングはモノづくりを変え、中小企業を元気にし、地域活性に繋がるツールであり、SDGsへの関わりはこれからのモノづくりに生かせる情報であるという、ヒト・モノ・カネ・ジョウホウの展開について事例を挙げて説明があった。

7 振り返り

ソーシャルナイト第1回目を予定の1ヵ月半遅れで開催した。また、コロナ感染防止対応から、本事業は、当初の社会貢献活動について、ゲストスピーカーとファシリテーターが対話形式で進め、参加者同士との交流も図るといったコンセプトを変更して、講師によるセミナー形式で行った。

リアル参加と Zoom によるオンライン参加のデュアル開催で32人の参加があっ

たが、オンラインの欠席者は8人で参加率は70%であった。オンライン参加者には、子育て中でも、遠方からでも参加できるなどの利便性を感じている方がいるが、今後、オンライン参加者と一体感ができる工夫をしていくと共に、内容に関しても当初のコンセプトに近づける工夫もしていきたい。



以上

### ソーシャルナイト Vol.2 報告書

- 1 日 時：令和2年10月2日（金）19：00～20：30
- 2 会 場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや及びオンライン(Zoom)
- 3 担 当：二宮
- 4 参加者：31人（会場参加：13人、オンライン参加：15人、他：3人）
- 5 講 師：児島 一平氏（NPO法人みんなの未来かいたく団 理事長）
- 6 事業詳細：
  - (1) 目 的：社会貢献活動の実践者から活動内容を紹介してもらうことで、意識、気づきから、踏み出すきっかけを見つけ、社会・地域における貢献活動への意欲喚起に繋げる。参加者間との交流によるコミュニティを形成し、参加意識を醸成することを目的とする。
  - (2) 内 容：第2回目は「自分らしく生きる」をキーワードにニート、ひきこもりなどの方たちが生きるための「社会とつながる場」づくりを耕作放棄地の開拓で実践中の話や目指していることなどを伝えた。
- 7 振り返り：会場参加とZoomによるオンライン参加のデュアル開催で、参加率は93%であった。芦屋市在住者は39%、50代以下の方が71%と概ねターゲット層に遡及できたと思われる。前回、課題となったオンライン参加者との一体感については、司会がゲストスピーカーにインタビューやオンライン参加者の意見、疑問を伝えるなどしてパイプ役をした。  
課題としては、司会の音声オンライン参加者に聞き取りにくいというクレームがあった。  
内容に関しては、評価のばらつきがあった。講師の実体験を経て、今の取り組みや言葉に共感したなど、全体的には68%が概ね好評だった。一方で、ひきこもり、ニート、発達障害の支援をしている関係者、現役企業人の中に、「〇〇すべき」「〇〇ということ」のような結論付けを求めている方にとっては、物足りなさがあったようだ。



### ソーシャルナイト Vol.3 報告書

- 1 日 時：令和2年11月6日（金）19：00～20：30
- 2 会 場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや及びオンライン(Zoom)
- 3 担 当：二宮
- 4 参加者：40人（会場参加：17人、オンライン参加：20人、他：3人）
- 5 講 師：丹羽 洋文氏（すまい研究室 一級建築士事務所 代表）
- 6 事業詳細：
  - (1) 目 的：地域の活力の減退、空き家の増加が芦屋市でも課題となっていることから、専門家の実践事例を聞き、空き家をどのように活用し、地域コミュニティに活用していくかを情報交換、意見交換を行い、課題解決に繋げていくことを目的とする。
  - (2) 内 容：第3回目は「空き家再生とコミュニティ」をテーマに、ゲストスピーカーからは、空き家の活用方法の実践事例を紹介した後に、司会者が不動産に関わる疑問点や対応方法などを聴くことで内容を掘り下げていった。
- 7 振り返り：参加率は84%、芦屋市在住者は35%、50代以下は57%であった。司会役からゲストスピーカーやオンライン参加者に意見を求めるなどして、オンライン参加者との一体感を意識した進行を心掛けた。  
司会の音声オンライン参加者に聞き取りにくいという課題は完全には解消されなかったが、オンラインへの対応が双方ともに慣れてきたこともあり、比較的円滑な進行ができたものと思われる。ただ、ゲストスピーカーの資料が、Zoomの画面共有機能を使って紹介されたが、操作に時間を要するなどのロスがあったことから、事前の確認が必要であると思った。  
アンケート回答のあった17件の内、「とても役立った」が10件であったが、参加者の内、古民家経営や運営に興味を持っている方にとっては、具体的な話を期待していた分、物足りなさがあったようだ。



---

### ソーシャルナイト Vol.4 報告書

- 1 日 時：令和2年12月4日（金）19：00～20：30
- 2 会 場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや及びオンライン(Zoom)
- 3 担 当：二宮
- 4 参加者：36人（会場参加：12人、オンライン参加：21人、他：3人）
- 5 講 師：原田 明氏（住民代理店 BOB 代表、伊丹市西鈴原自治会長）
- 6 事業詳細：
  - (1) 目 的：自分が住んでいる等の地域に市民がどのように関わるか、又は関わら

せるかといったテーマを、担い手不足などの課題を抱える自治会をモデルにコミュニティの作り方について情報交換、意見交換を行い、課題解決のヒントを掴む。

(2) 内 容：第4回目は「地域に関わる～楽しいコミュニティの作り方」をテーマに、ゲストスピーカーからは、地元の自治会長に就任してから、これまでに経験してきた様々なコミュニティの関わり方を自治会運営に導入し、変革させてきた仕掛けとコツを話してもらい、参加者と意見交換、情報交換を行った。

7 振り返り：参加率は75%、芦屋市在住の参加者は欠席者が多く19%、50代以下は81%。ゲストスピーカーに司会役や参加者からの質問を投げかけるなどして、会場及びオンライン参加者との一体感を意識した進行を心掛けた。会場参加者には、名前を指名して発言を求めるなどの工夫をすれば、更に一体感が得られたかもしれない。



司会の音声オンライン参加者に聞き取りにくいという課題は今回も完全には解消されておらず、また、ゲストスピーカーのPCが途中バッテリー不足にてPCの変換作業をするなどのロスがあった。

アンケート回答のあった18件の内、「とても役立った」が12件であり、概ね、好評価を得られたようだ。

---

#### 「君も今日から新聞記者」報告書

- 1 日 時：講座 10月3日(土) 15:00~17:00  
実践 10月4日(日) 10月20日(火) 10月24日(土)  
10月31日(土)  
講評 11月14日(土) 10:00~12:00
- 2 会 場：リードあしや オープンスペース1 他
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：64人(県立芦屋高等学校生 クラーク国際記念高等学校)
- 5 講 師：武藤邦生さん 小森準平さん(神戸新聞社)
- 6 事業詳細

(1) 目 的：子どもの頃から市民活動に触れて、知って、理解を深める環境をつくること。世代を超えたふれあいと、次世代を担う人材育成、活動人口を増やすことを目的とする。

人の話を傾聴し、文章化することから、自身が理解でき、次へ伝えることのできることの喜びを実感できればと希望している。

(2) 内 容：・1回目：記事の書き方、写真の撮り方等を学ぶ(神戸新聞社)

- ・ 2回目：実践（セミナー等でインタビューし新聞を作成）
- ・ 3回目：講評と成果発表（神戸新聞社）

実践の場

「防災倉庫撮影」「SDGs を体験しよう」「ふれあいスリランカカフェ」  
「みんなで聞いてみよう！」「あしや市民活動フェスタ」

## 7 振り返り

- ・ 平成29年度から始めた事業であるが、毎回学生の書きっぷりに驚かされる。特に今年度は神戸新聞社が全ての取材日に付いたわけではなく、Web上だけのやり取りだけの時もあったにもかかわらず、どれも読み応えのあるものに仕上がった。取材対象になった方々にも一様に感激の言葉をいただいた。
- ・ 学生からは「楽しかった」「学べた」と前向きな感想が多く、成果物を見ても継続すべき事業と確信した。
- ・ 同席の先生からの感想としては、「生徒たちがこんなに書けるのだと驚き思った。」「良い経験ができたと思う。」「自分の想いは必要かどうかを検討する。」「助詞「も」が多い。」など率直的な意見があった。



以上

### 聞いてみよう！どうなっている JR 芦屋駅南報告書

- 1 日 時：令和2年10月24日（土）13：00～15：00
- 2 会 場：リードあしや 会議室 B
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：21人（市民8人 高校生7人 神戸新聞社2人 行政2人 事務局2人）
- 5 語り手：芦屋市都市整備課 辻さん 柴田さん
- 6 事業詳細
  - (1) 目 的：長年にわたり構想されてきた JR 芦屋駅南地区開発が立ち往生している原因を、都市整備課に語っていただき、市民に関心を持って知る機会を提供する。
  - (2) 内 容：Zoom を利用し、最初に都市整備課からの説明を聴き、それに対する質疑応答を行う。



## 7 振り返り

- ・参加者からは「良い企画であったが、参加者が少なく残念だった」と感想があった。開催日を間違えたり、ネット環境が悪かったりで参加できなかった方もおられた。また、SNSでの呼びかけは手ごたえが良かったが、参加までには至らなかった。日程調整をしたほうがよかったのかもしれない。
- ・質問は出にくいと思い、司会者との問答を想定していたが、思ったより疑問を投げただけだ。
- ・子ども新聞記者（高校生7人）も参加し、内容が難しかったようだが、大人と行政との話が、自分たちとも関わりのあることだと理解したようだった。次世代を担う人材が育つ場になれたように思われた。



以上

### グラフィックレコーディングセミナー報告書

- 1 日 時：令和2年11月8日（日）10：00～17：00
- 2 会 場：リードあしや オープンスペース1
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：19人（講師1人 会場10人 オンライン7人 職員1人）
- 5 講 師：アオナミユミコさん（ビジュアルファシリテーター）
- 6 事業詳細

(1) 目 的：ファシリテーターのツールの一つであるグラフィックレコーディングを極め、話し合いによって自分たちの活動を進めるためのものとして取得する。

(2) 内 容：Listen・Look（入力）、Draw（出力）、Think（出力）を身に付ける。

## 7 振り返り

- ・6時間におよぶセミナーであり、気力・体力が持つ不安であったが、内容が充実していたということもあり、アンケートでもわかるように楽しく最後まで学べたようであった。
- ・次回振り返り会を予定している。



以上

## グラフィックレコーディングセミナー振り返り会報告書

- 1 日 時：令和2年12月17日（木）19：00～21：00
- 2 会 場：リードあしや 会議室C
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：8人（講師1人を含む）
- 5 講 師：アオナミユミコさん（ビジュアルファシリテーター）
- 6 事業詳細

- (1) 目 的：セミナー受講後のフォローアップを図る。
- (2) 内 容：ウォーミングアップ：体全体を使って線と円を描く。  
質疑&応答：悩みを一緒に考える。

### 7 振り返り

- ・平日夜としたため、参加者が少なかったが、受講者のグラフィックレコーディングを実施する際の質問や悩みを深堀でき、参加者同士の意見交換ができた。
- ・講演会や議事録だけでなく、相談を受ける際や、打ち合わせ時にもこの手法が使えることを再確認できたが、受講者の満足度をあげた。
- ・基本的には矢印や色づかいで話の流れやつながりを表している。絵はそれほどまで描かれていないことをあらためて理解でき、グラフィックレコーディングのハードルが下がったようだ。



以上

---

## 災害時対応セミナー「災害時ケースマネジメント」報告書

- 1 日 時：令和3年1月16日（土）13：30～16：00
- 2 会 場：リードあしや 会議室CD 及び リモート（Zoom）
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：41人（講師1人 会場5人 オンライン33人 職員2人）
- 5 講 師：津久井 進 弁護士
- 6 ゲストスピーカー：芦屋映像倶楽部あしゾウ クラーク国際記念高等学校
- 7 事業詳細

- (1) 目的：災害というテーマを通じて、日常からの市民、行政、団体等のつながりを深め、いつでも協働のできるまちを作り上げる。
- (2) 内容：第1部 津久井先生に聞く！災害時ケースマネジメント

## 第2部 防災倉庫映像について語る

### 8 振り返り

- ・パソコンおよび配信トラブルが続出したのが一番の問題。パソコンは前々日くらいにWindowsアップデートがあり、パフォーマンスが下がったことが大きな原因であったと思われる。事前準備では問題がなかったが、パソコントラブルの対処、いわゆる災害時対応ができていなかった。
- ・第1部の津久井先生のセミナーは、アンケートからもわかるように高評価だった。
- ・第2部の映像配信は問題が起きたが、学生・あしゾウと津久井先生とのやりとりはスムーズで、特に学生の真摯な姿が大人の心を打ったようだ。
- ・さらに多様な団体との協働による、世相にあった災害時セミナーの継続を続けていく必要性を感じた。今後も津久井先生をスーパーバイザーとして様々な角度から取り組んでいく。



---

### リードあしやのガーデンづくり報告書

- 1 日時：令和2年4月1日（水）～10月31日（土）
- 2 会場：芦屋市立あしや市民活動センター リードあしや
- 3 担当：二宮
- 4 参加者：58人（ボランティア：8人、協力/みどり作業所：37人、他：13人）
- 5 アドバイザー：藤山 文さん
- 6 事業詳細：
  - (1) 目的：庭づくりという身近なボランティアへの関わりから、活動に馴染み、自分たちで考え、達成することの喜びを知ること、市民活動への参加意欲に繋がるボランティアを養成する。
  - (2) 内容：土づくり、花苗植え、草抜き、水やりといった庭づくりの作業は、4月下旬から募集予定のボランティアに替わり、みどり作業所の障がい者の協力を得て行った。

日付	作業内容	人数 (ボランティア・協力)
5/12	S字通路沿いの土起こし、堆肥混入作業	8人 (5人)
5/24	駐輪場フラワーネット張り付け作業	2人 (1人)
7/3	西側生垣の剪定作業、ひまわりの間引き作業	7人 (6人)
7/17	メインガーデンの土増し作業	8人 (6人)
7/31	メインガーデンの保水性改良材の投入作業	6人 (5人)
8/7	草抜き、花摘み、蔓の巻き付け作業	8人 (7人)
8/14	草抜き、花摘み、蔓の巻き付け作業	4人 (3人)
8/21	メインガーデンの堆肥投入、境界溝掘り作業	5人 (4人)
8/22	駐輪場フラワーネット張り替え作業	2人 (1人)
8/28	花壇境界用割り木の保護剤塗布作業	7人 (5人)

- 7 振り返り：本事業は、庭づくりを通して、身近な体験からボランティアの養成、及び、リードあしやをより居心地の良い空間にして利用者増に繋げる事業と位置付けていたが、センターの一時閉館などのコロナ禍の影響が大きく、計画が予定通りに進捗せず、花を植え込む作業にまで至っていない状況となっている。コロナ禍の逆効果として、通学ができなくなった女子高校生3名が、夏休み期間を利用して、花摘みや草抜き作業といったボランティア活動に参加してくれた。高校生には、その後、他のセンター事業にもボランティアとして関わってもらっている。今後は、花苗を植えて、手入れが必要となる来年度の春ごろから、コロナ状況を踏まえてボランティアを募集し、活動できる準備をしていきたい。



以上

#### 防災倉庫の映像化報告書

- 1 日 時：令和2年6月～令和3年1月
- 2 会 場：リードあしや 浜風小学校
- 3 担 当：橋野

4 参加者：26人（クラーク記念国際高等学校防災部7人 芦屋映像倶楽部あしぞう5人 ふとっちょの木1人 芦屋防災士の会2人 あし笛4人 防災安全課4人 芦屋市教育委員会1人 職員2人）

5 協力：浜風小学校 芦屋市社会協議会

6 事業詳細

(1) 目的：災害時に誰でも利用できる防災倉庫であるために、倉庫内の用具と用具の使い方を映像化する。

(2) 内容：全体会議2回 下見2回 撮影2日 アフレコ1日 試写会1回

7 振り返り

- ・コロナ禍の中ではあったが、多くの団体に協力をいただき完成できた。特に出演したクラーク記念国際高等学校防災部の学生、芦屋市防災士の会の方々には大きなお力添えをいただいた。
- ・防災倉庫映像を撮りたいという芦屋映像倶楽部あしぞうの想いと、芦屋の状況を伝えたい当方の想いが重なり、今回の映像が出来上がった。コミュニケーション不足のところもあったが、最終的には良いものが出来上がり、参加者が満足した。
- ・撮影時にはクラーク生が参加者へのインタビューを試み、記事も仕上がった。読売新聞にも取り上げていただき、広報効果はよかった。
- ・広報として、ポスター・チラシを、庁内、芦屋市社会福祉協議会などに配架依頼を出した。見ていただいた方からは高評価をいただいた。
- ・次年度は、国際都市芦屋と言われるように、多言語テロップを付け加える作業をし、より良いものに仕上げていきたい。



以上

### SDGs を体験しよう！事業名報告書

- 1 日 時：10月～3月 全8回
- 2 会 場：リードあしや 会議室CD リモート
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：401人
- 5 講 師：中嶋 雅美 (SDGs 公認ファシリテーター)
- 6 事業詳細

(1) 目 的：SDGs を学ぶことによって市民活動にどんな変化や可能性をもたらすのか、活動を継続的に、より高めるために何が必要かなどの気づきの場とする。

(2) 内 容：地方創生 de SDGs カードゲーム体験

SDGs の考え方を地域の活性化に活かし、地方創生を実現する方法について参加者全員で対話し、考えるためのゲーム  
市民（5人）と行政（2人）に役割分担をする。



### Just! do it 「書の寺子屋」事業名報告書

- 1 日 時：令和2年10月20日24日 11月14日21日 12月7日16日  
1月6日16日 2月4日13日19日 3月1日16日 2、3時間
- 2 会 場：リードあしや 会議室CD オープンスペース1
- 3 担 当：橋野
- 4 参加者：148人 (小中高大学生 一般)
- 5 講 師：狩谷 申 (書家)
- 6 事業詳細

(1) 目 的：書を通じて心の拠り所を見つけ、多世代交流につなげる。

(2) 内 容：書きたいものを講師と考えながら作り上げる。

#### 7 振り返り

- ・狩谷氏の教え子である高校生、大学生が常に参加されたことで、常に明るい雰囲気の中での開催であった。
- ・参加者は小学生から70代まで、障がいをお持ちの方、外国の方がおり、多い時で20人の参加人数であった。

- SNS や広報あしやで広報や作品配信をしたことで、不要になった半紙を提供やお問い合わせが多かった。



以上

### 伊丹市立市民まちづくりプラザ講師派遣事業報告書

- 1 実施日：8月2日（日） 13：30～16：45
- 2 担 当：二宮 毅行
- 3 参加者：18名（内、伊丹市職員：2名、まちづくりプラザ職員：3名）
- 4 派遣講師：二宮 毅行
- 5 目 的：伊丹市まちづくり推進課が主管する「伊丹市公募型協働事業提案制度」に係る事業の一環として、提案制度の応募者がプレゼンテーション審査に臨むにあたっての事前準備として、「プレゼンテーション講座」を開催。
- 6 内 容：タイトル：プレゼンテーション講座～「ツボ」と「コツ」
- 7 振り返り

伊丹市の市民協働事業に組み込まれた講座であり、伊丹市の関心も高いものであったことから、講座内容には十分な気を遣った。プレゼンテーションに関する書籍や Web 情報や手法は多岐に亘り、様々な展開がある中で、最も理解しやすい内容にまとめることが非常に難しく、プレゼン講師がいい加減な講座をすることはできないといったプレッシャーもあったが、丁寧な説明を心掛けたことで、参加者の満足度も十分に得られたものとなった。

模擬プレゼンでは、提案に応募している4人の方に、人前で話してもらい、それを参加者と一緒に評価する時間を取り入れたが、良いところ、悪いところを話し合うことで、本番に臨むための有効な練習となったと思われる。是非、採択に向けて、今回の講座を生かして欲しいと思う。



第14期（令和2年度）活動計算

（特活）あしやNPOセンター 令和2年4月1日～令和3年3月31日

（単位：円）

科 目	金 額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
正会員受取会費	90,000	
賛助会員受取会費	37,000	127,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金		73,600
3. 受取助成金		
持続化給付金(厚生労働省)	2,000,000	
休業要請事業者継続支援金(兵庫県)	1,300,000	
中小事業開発支援助成金(兵庫県)	200,000	
感染防止対策管理者支援金(芦屋市)	233,875	
兵庫県社会福祉協議会	330,000	
日本政策金融公庫	50,000	4,113,875
4. 事業収益		
あしや市民活動センター指定管理料	30,500,000	
会議室利用料	1,193,095	
印刷機等利用料	1,715,490	
講師派遣	29,444	
事業収益	1,237,413	34,675,442
5. その他収益		
受取利息	101	
その他収入	10,628	10,729
<b>経常収益計</b>		<b>39,000,646</b>
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	19,599,536	
法定福利費	2,716,849	
福利厚生費	29,848	
ボランティア謝金	2,200	
通勤交通費	534,987	
<b>人件費計</b>	<b>22,883,420</b>	
(2) その他経費		
業務委託費	666,750	
諸謝金	530,077	
広告宣伝費	660,000	
通信運搬費	444,162	
活動交通費	30,170	
相談員謝金	20,000	
消耗什器備品費	293,317	
消耗品費	1,550,161	
修繕費	427,350	
水道光熱費	1,750,419	
新聞図書費	26,059	
支払手数料	34,362	
印刷製本費	609,075	
会場費	29,140	
リース料	1,561,657	



保険料	65,310		
租税公課	1,335,020		
研修費	7,500		
会館管理費	2,044,020		
会館修繕費	788,000		
事務局費	710,091		
減価償却費	22,356		
<b>その他経費計</b>	<b>13,604,996</b>		
<b>事業費計</b>		<b>36,488,416</b>	
<b>2. 管理費</b>			
<b>(1) 人件費</b>			
給料手当	217,380		
法定福利費	4,646		
福利厚生費	36,910		
通勤交通費	7,113		
<b>人件費計</b>	<b>266,049</b>		
<b>(2) その他経費</b>			
業務委託費	343,750		
会議費	69,400		
通信運搬費	95,123		
活動交通費	5,920		
消耗什器備品費	66,000		
消耗品費	349		
水道光熱費	35,722		
印刷製本費	80,670		
会場費	3,230		
リース料	11,000		
租税公課	206,220		
支払報酬費	10,000		
諸会費	3,000		
支払手数料	2,132		
<b>その他経費計</b>	<b>932,516</b>		
<b>管理費計</b>		<b>1,198,565</b>	
<b>経常費用計</b>			<b>37,686,981</b>
<b>当期正味財産増減額</b>			<b>1,313,665</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>			<b>5,200,669</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>			<b>6,514,334</b>

## 財産目録

令和3年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
<b>現金預金</b>			
現金	現金手許有高	260,989	
預金	三井住友銀行芦屋支店	5,817,478	
前払金	消費税及び 地方消費税の中間申告	761,900	
未収金	新型コロナ感染防止対策 指定管理者支援(芦屋市)	233,875	
	ひょうごボランティアプラザ基 金 (兵庫県社会福祉協議会)	300,000	
	<b>流動資産合計</b>		<b>7,374,242</b>
<b>2. 固定資産</b>			
器具備品	輪転印刷機	22,356	
	<b>固定資産合計</b>		<b>22,356</b>
	<b>資産合計</b>		<b>7,396,598</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	会議費(理事会議参加費)	55,000	
	消耗什器備品(プロジェクター)	93,478	
	消耗品(会館備品等)	127,062	
預り金	源泉所得税・社会保険料	606,724	
	<b>流動負債合計</b>		<b>882,264</b>
	<b>負債合計</b>		<b>882,264</b>
	<b>正味財産合計</b>		<b>6,514,334</b>

貸借対照表

令和3年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金	260,989		
預金	5,817,478		
前払い金	761,900		
未収金	533,875		
<b>流動資産合計</b>		<b>7,374,242</b>	
<b>2. 固定資産</b>			
器具備品	22,356		
<b>固定資産合計</b>		<b>22,356</b>	
<b>資産合計</b>			<b>7,396,598</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1. 流動負債</b>			
未払金	275,540		
預り金	606,724		
<b>流動負債合計</b>		<b>882,264</b>	
<b>負債合計</b>			<b>882,264</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		5,200,669	
当期正味財産増減額		1,313,665	
<b>正味財産合計</b>			<b>6,514,334</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>			<b>7,396,598</b>

## 財務諸表の注記

事業所名：特定非営利活動法人あしやNPOセンター

1.計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日 2017年12月12日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によります。また、消費税等の会計処理は、税込経理方式によります。

2.「役員報酬」に関しましては、支払われておりません。

集計期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

勘定科目	年間予算	指定管理	指定・自主	独自・自主	共通	合計
正会員受取会費	200,000	0	0	0	90,000	90,000
賛助会員受取会費	50,000	0	0	0	37,000	37,000
受取寄付金	40,000	0	0	0	73,600	73,600
会費・寄付金計	290,000	0	0	0	200,600	200,600
指定管理料	30,500,000	30,500,000	0	0	0	30,500,000
会議室利用料	1,000,000	1,193,095	0	0	0	1,193,095
指定管理計	31,500,000	31,693,095	0	0	0	31,693,095
印刷機等利用料	2,750,000	1,322,230	314,607	0	78,653	1,715,490
講師派遣	50,000	0	0	29,444	0	29,444
事業収益	250,000	34,620	982,307	152,432	68,054	1,237,413
受取助成金・協賛金	3,635,000	233,875	300,000	80,000	3,500,000	4,113,875
自主事業計	6,685,000	1,590,725	1,596,914	261,876	3,646,707	7,096,222
受取利息	1,000	0	0	0	101	101
その他収入	0	2,685	0	7,943	0	10,628
その他計	1,000	2,685	0	7,943	101	10,729
売上高合計	38,476,000	33,286,505	1,596,914	269,819	3,847,408	39,000,646
給料手当	19,823,000	17,810,273	1,527,100	262,163	217,380	19,816,916
法定福利費	2,640,000	2,716,849	0	0	4,646	2,721,495
福利厚生費	300,000	29,848	0	0	36,910	66,758
通勤交通費	857,000	534,987	0	0	7,113	542,100
人件費計	23,620,000	21,091,957	1,527,100	262,163	266,049	23,147,269
業務委託費	1,560,000	466,750	200,000	0	343,750	1,010,500
諸謝金(講師・委員)	758,000	404,478	38,488	87,111	0	530,077
ボランティア謝金	40,000	2,200	0	0	0	2,200
渉外費	20,000	0	0	0	0	0
広告宣伝費	256,000	200,000	60,000	400,000	0	660,000
会議費	95,000	0	0	0	69,400	69,400
通信運搬費	525,000	435,487	8,423	252	95,123	539,285
活動交通費	108,000	9,490	19,080	1,600	5,920	36,090
相談員謝金	55,000	20,000	0	0	0	20,000
消耗什器備品費	410,000	199,839	93,478	0	66,000	359,317
消耗品費	1,578,000	1,346,084	198,295	5,782	349	1,550,510
修繕費	100,000	217,250	210,100	0	0	427,350
水道光熱費	1,930,000	1,750,419	0	0	35,722	1,786,141
新聞図書費	25,000	26,059	0	0	0	26,059
印刷製本費	943,000	600,330	2,445	6,300	80,670	689,745
会場費	8,000	0	0	29,140	3,230	32,370
リース料	1,725,000	1,535,209	26,448	0	11,000	1,572,657
保険料	99,000	65,310	0	0	0	65,310
租税公課	1,500,000	1,334,520	500	0	206,220	1,541,240
支払報酬料	30,000	0	0	1,870	10,000	11,870
研修費	80,000	7,500	0	0	0	7,500
諸会費	6,000	0	0	0	3,000	3,000
会館修繕費	610,000	788,000	0	0	0	788,000
会館維持管理費	2,329,000	2,044,020	0	0	0	2,044,020
事務局費		710,091	0	0	0	710,091
支払手数料	27,000	31,512	980	0	2,132	34,624
減価償却費		0	0	22,356	0	22,356
事業費計	14,817,000	12,194,548	858,237	554,411	932,516	14,539,712
支出計	38,437,000	33,286,505	2,385,337	816,574	1,198,565	37,686,981
収支計		0	-788,423	-546,755	2,648,843	1,313,665

## 計算書類の注記

特定非営利活動法人あしやNPOセンター

### 1.重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日 2017年12月12日一部改正によるNPO法人会計基準協議会)によります。また、消費税等の会計処理は、税込経理方式によります。

#### (1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却しています。

#### (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

### 2.事業費の内訳

事業別収益の状況は別紙(「財務諸表の構成要素注記」)の通りです。

### 3.使途等が規約された受取助成金等の内訳

使途等が規約された受取助成金等の内訳は以下の通りです。

(単位:円)

内容	助成金額
日本政策金融公庫 (中間支援団体全大会)	50,000
兵庫県社会福祉協議会 (中間支援団体全大会)	30,000
兵庫県社会福祉協議会(ひょうごボランティア基金) (災害時の仕組みづくり)	300,000
合計	380,000

### 4.固定資産の増減内訳

固定資産の増減内訳は以下の通りです。

(単位:円)

科目	期首帳簿価格	取得	減少	期末帳簿価格	償却累計額
固定資産					
什器備品(輪転機)	44,712	0	22,356	22,356	226,044
合計	44,712	0	22,356	22,356	226,044

令和2年4月22日

特定非営利活動法人 あしやNPOセンター  
理事長 石本 章宏 殿

### 監査報告書

私ども両名は特定非営利活動促進法第18条の規定に基づいて、去る令和3年4月22日10時から12時まで約2時間、あしや市民活動センター会議室Aにおいて、当法人（特定非営利活動法人あしやNPOセンター）の令和2年度（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）の活動報告書及び計算書類（事業別会計及び収支計算書）について監査を行いました。

監査の結果、法人の業務は、法令及び定款そして活動計画にもとづき適正に執行され、会計処理は、一般に公正妥当と認められる会計原則に則って、適正に処理されているものと認められました。

依って私たちは、活動報告及び収支計算書が事業年度の終了時点（令和3年3月31日現在）における当法人の経営（業務執行及び財務）状況を適正に表示していることを認めます。

監事 朝倉 乙巳 

監事 津久井 進 